

# [三多摩腎疾患治療医会]

## 第 80 回研究会

プログラム

および

演題要旨

\*当日、参加費壱千円を徴収させていただきます。

令和 5 年 5 月 28 日 (日)

於：杏林大学大学院講堂



# 三多摩腎疾患治療医会

## [第80回研究会 プログラム]

2023年 5月 28日(日) 13:00~16:00

於:杏林大学大学院講堂

<開会の辞> 理事長 要 伸也 13:00~13:05

I. 一般演題 (発表 10分 討論 5分) 13:05~14:15

座長: 鈴木 創 13:05~13:35

### 1. 『血漿交換療法を行った抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の一例』

杏林大学 腎臓・リウマチ膠原病内科: 新井詩織, 須原夕貴, 松野裕樹, 竹森愛,  
佐藤由利子, 川嶋聡子, 川上貴久, 岸本暢將, 駒形嘉紀, 要 伸也  
杏林大学 産婦人科: 谷垣伸治  
佼成病院 腎臓内科: 軽部美穂

### 2. 『補体 C9 欠損を伴った IgA 腎症の一例』

東京医科大学八王子医療センター腎臓病センター腎臓内科・血液浄化療法室:  
青木 健、小島 糾、小泉美波、迎 光矢、酒井敬史、山田斎毅、小島亜希、  
内田貴大、富安朋宏、山田宗治、尾田高志

座長: 中林 巖 13:35~14:05

### 3. 『精神発達遅滞患者に対する生体腎移植の1例』

東京医科大学八王子医療センター 腎臓病センター 腎臓外科: 木原優、沖原正章、  
赤司勲、今野理、岩本整  
医療法人社団 石川記念会: 安藤亮一

### 4. 『腎性上皮小体機能亢進症治療における vitamin D 投与の重要性』

松和会北八王子クリニック: 矢島愛治<sup>1,2,3</sup>、花房規男<sup>2</sup>、角田隆俊<sup>4</sup>、David B. Burr<sup>3</sup>、Joseph  
M. Wallase<sup>5</sup>、富永芳博<sup>6</sup>、土谷健<sup>2</sup>、新田孝作<sup>7</sup>  
東京女子医科大学血液浄化療法科<sup>2</sup>、  
Indiana University, School of Medicine, Department of Anatomy, Cell Biology and  
Physiology<sup>3</sup>、東海大学医学部付属八王子病院腎内分泌代謝内科<sup>4</sup>、

Indiana University, Purdue University, Indianapolis, Department of Biomedical Engineering<sup>5</sup>、  
名古屋第二赤十字病院移植外科<sup>6</sup>、東京女子医科大学腎臓内科<sup>7</sup>

座長： 松川 重明

14:05～14:20

5. 『当院で経験した Covid-19 透析症例より学ぶ』

(医) 吉祥寺あさひ病院

有村義宏、渡邊カンナ、佐藤 綾、大和恒恵、小山雄太、坂川英一郎、天神美香、  
中西延光、高橋美枝、日昔真里、元山勇士、丹治智之、稲葉圭子、齋藤和枝、  
荒木真理、松田崇大、野口智永、安田 隆

∞∞∞

休憩

∞∞∞

14:20～14:35

II. 総会

14:35～14:55

理事長： 要 伸也

III. 情報提供

14:55～15:05

座長：尾田 高志(副理事長、災害対策委員長)

『北多摩西部ブロックにおける 2022 年度の災害対策活動の紹介』

河崎 智樹

IV. 特別講演

15:05～15:55

座長：岩本 整

『移植医療推進の行政の取組』

厚生労働省健康局難病対策課移植医療対策推進室 室長補佐

吉川 美喜子先生

<閉会の辞> 副理事長 尾田高志

15:55～16:00

## 【演題要旨】

### 1. 『血漿交換療法を行った抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の一例』

杏林大学腎臓・リウマチ膠原病内科:新井詩織

30歳女性. X-7年,繰り返す流産と抗カルジオリピン抗体,抗CLβ2GPI抗体,ループスアンチコアグラント陽性より抗リン脂質抗体症候群(anti-phospholipid antibody syndrome: APS)と診断された.X年Y月,妊娠4週で下肢深部静脈血栓症を生じ,ヘパリン持続点滴とアスピリン100mg/日を開始.妊娠20週に胎児発育不全と子宮および臍帯動脈の血流異常,両手掌の疼痛を伴う紅斑,高血圧,血小板減少などを認め,PSL20mg/日とニフェジピン40mg/日を開始.症状改善を得られず,妊娠21週より単純血漿交換療法(Plasma Exchange: PE)を行った.なお,PEは新鮮凍結血漿を用い,血小板低値による易出血のため末梢血管をバスキュラーアクセスとする対応などを行った.しかし,妊娠23週4日に胎児機能不全で緊急帝王切開により出産され,児は翌日死亡した. APS合併妊娠の管理・治療法は,ヘパリン点滴,低用量アスピリン,PEなど確立されてきているものもあるが,個々に慎重な対応を要する. APSハイリスク妊娠患者にPEを行った一例を経験した.文献的考察を加え報告する.

### 2. 『補体C9欠損を伴ったIgA腎症の一例』

東京医科大学八王子医療センター腎臓病センター腎臓内科・血液浄化療法室:青木 健

症例は50代男性. X年に蛋白尿,腎機能障害を指摘され当院を受診した. Cre1.2mg/dLの腎障害に加え,UP 1.99 g/gCr, U-RBC 10-19/HPFと蛋白尿および糸球体型血尿を認め,免疫血清ではCH50 18.3と著明な低補体活性を認めるもC3, C4は正常であった. 腎生検:光顕でメサングウム細胞増殖,蛍光抗体法でIgAおよびC3のメサングウム領域への沈着,電顕でparamesangial depositを認め, IgA腎症と診断. 免疫染色を追加したところ, C5は陽性だが, C5b-9は完全に陰性であった. 本邦で最も頻度の多いC9欠損を疑い, 患者血清に十分量のC9を補充して補体活性を再評価したところ, CH50は完全に正常化し, ELISAでC9を測定すると感度以下でありC9欠損と診断した. C9欠損を伴ったIgA腎症は極めて稀であり, 組織学的解析と文献的考察を加え報告する.

### 3. 『精神発達遅滞患者に対する生体腎移植の1例』

東京医科大学八王子医療センター 腎臓病センター 腎臓外科:木原優

精神発達遅滞の腎不全患者は, 精神遅滞の程度が個々に違い, 家族のサポート体制も重要になるため症例に応じて腎代替療法を考える必要がある. 今回我々は, 意思の疎通が難しい精神発達遅滞患者に対して生体腎移植を行った症例を経験したため報告する. 症例は43歳男性. 生来精神発達遅滞及び腎機能障害が指摘されていた. 徐々に腎機能が悪化し腎移植を希望され当院を受診された. 母親がドナーを希望され, レシピエントは意思疎通が困難な状況であった. 術前検査では両者ともに問題はなかったが, レシピエントのはっきりした意思が確認できなかったため, 当院の倫理委員会で議論を行い, 承認後に移植手術を施行した. 手術施行後合併症なく経過したが, 術後4日目にドナーに発熱がみられCOVID-PCRを行ったところ陽性であった. レシピエントも陽性となったが, 二人ともに軽症で経過しCrは1.5mg/dlで退院された. 家族のサポートもありCrは1.6程度で良好に推移し外来通院中である.

#### 4. 『腎性上皮小体機能亢進症治療における vitamin D 投与の重要性』

松和会北八王子クリニック: 矢島愛治

はじめに; IIIHPT 治療における PTX 術後 VD 投与の位置付けは明確なものでなかった。当検討で、VD 投与の骨細胞性骨石灰化への治療効果を述べる。

方法; 19 症例 (58.4 歳、iPTH=1210.5 pg/mL) に対し PTX を行った。15 症例は術後 4 週間  $\alpha$  カルシドール 2.0  $\mu$ g/day を内服した (Group I) が、4 症例は内服しなかった (Group II)。術前、4 週後の腸骨骨組織で VD 投与の重要性を検討した。

結果; Ob.S/BS; Group I (23.6→17.9 %), II (31.9→26.9 %), BFR/BS; Group I/II (0.020/0.026  $\text{mm}^3/\text{mm}^2/\text{y}$ )、HM.B.Ar/B.Ar; Group I (17.3→2.6 %), II (6.0→14.3 %) と変化した。(calcimimetics 治療でも、同様の結果を得た。)

結論; IIIHPT 治療における VD 投与は骨細胞性骨石灰化において重要である。

#### 5. 『当院で経験した Covid-19 透析症例より学ぶ』

(医) 吉祥寺あさひ病院: 有村義宏

【目的】当院で経験した Covid-19 透析例を解析し今後の感染症対策に生かす【対象】当院 (腎臓・透析専門病院) で 2020 年 12 月 1 日から 2022 年 11 月 30 日までの 2 年間に経験した Covid-19 維持透析 74 例。【方法】Covid-19 維持透析例の性差、発症年齢、治療時期、予後などについて検討【結果】1. 男女比 4.3 : 1.0 と男性に多く、平均年齢 74.6 歳 (男 73.7 才、女 75.6 才) 2. 当院発症例は 51 例で外来維持透析時 25 例、入院中発症 26 例。他院で発症し当院に転院例 23 例 (Covid-19: 急性期 11 例、回復期 12 例)。3. 当院発症例のうち 13 例が感染症専門施設に転院。Covid-19 急性期に当院に入院例は通院困難例、中等症 1 以下が多く、回復期入院例はリハビリ目的が多かった【結論】Covid-19 は感染力が強く、病状は多彩で病院機能に応じた緊密な医療連携の重要性を再認識した。



## 《賛助会員名簿》

令和5年3月末現在、賛助会員として本会にご支援、ご協力いただいている企業は以下の通りです。社名を掲載し、敬意と感謝の意を表します。(五十音順)

アステラス製薬株式会社

アストラゼネカ株式会社

キッセイ薬品工業

協和キリン株式会社

株式会社 ジェイ・エム・エス

中外製薬株式会社

東レ・メディカル株式会社

鳥居薬品株式会社

ニプロ株式会社

ノーベルファーマ株式会社

バクスター株式会社

扶桑薬品工業株式会社

